

第二期計画の策定検討に向けた基礎整理（素案）

記入イメージ

【海域 WG に係る主なモニタリング項目について】

No.	モニタリング項目	評価基準	遺産管理の努力による 評価基準達成の可能性	対応する評価項目	モニタリング項目と評価項目の 関係の妥当性	第1期計画期間中の モニタリング実績	次期計画での対応
			<選択肢> ●可能、△困難、×不可 可能		<選択肢> ●適当、△再検討の余地、×不適 当		<選択肢> ●継続、△条件つき継続、×除外
1	衛星リモートセン シングによる水 温・クロロフィル a の観測	【実施主体：検討中】 【評価指標：水温、クロロ フィル a】 ◆長期的に見たときの変動 幅を逸脱しているかどうか （基礎データとして他のモ ニタリング結果の評価にも 活用）	×不可能	I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。	●適当	実施主体が決まっておらず、 未解析	△条件付き継続 実施主体の検討を継続
				IV. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。	×不適当		×除外 評価項目からIVを削除
				VIII. 気候変動の影響もしくは影響の 予兆を早期に把握できること。	●適当		△条件付き継続 実施主体の検討を継続
2	海洋観測ブイによ る水温の定点観測	【実施主体：環境省】 【評価指標：水温】 ◆基準なし（自然環境等 の変動を把握し、様々な施策 の検討の際の基礎的な情報 を収集するためのモニタリ ング）	×不可能	I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。	●適当	・ウトロ沿岸域海洋観測ブイ による水温の定点観測 …毎年 ※R2 観測データなし ・羅臼沿岸域海洋観測ブイ による水温の定点観測 …毎年	●継続
				IV. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。	×不適当		×除外 評価項目からIVを削除
				VIII. 気候変動の影響もしくは影響の 予兆を早期に把握できること。	●適当		●継続
3	アザラシの生息状 況の調査	【実施主体：北海道】 【評価指標：来遊頭数】 ◆アザラシの保護管理に重 大な支障を生じさせないこ と（絶滅のおそれを生じさ せない）。	●可能	I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。	●適当	・陸上調査…H18、20 ・海上調査…H18 より隔年、 H30 まで ・航空機調査…H22、24、28 より 隔年 ・無人ヘリ調査…H26 より隔 年	●継続
				III. 遺産登録時の生物多様性が維持 されていること。	●適当		●継続
				IV. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。	●適当		●継続
				VIII. 気候変動の影響もしくは影響の 予兆を早期に把握できること。	●適当		●継続
4	海域の生物相、及 び、生息状況（浅海 域定期調査）	【実施主体：環境省】 【評価指標：生物相、生息 密度、分布】 ◆おおよそ登録時（or ベー スデータのある時点）の生 息状況・多様性が維持され ていること。	△困難	I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。	●適当	・知床半島浅海域における浅 海域生物相調査	●継続
				II. 海洋生態系と陸上生態系の相互 関係が維持されていること。	●適当		●継続
				III. 遺産登録時の生物多様性が維持 されていること。	●適当		●継続
				II. 海洋生態系と陸上生態系の相互 関係が維持されていること。	●適当		●継続